

# 茶路川筋の アイヌ語地名

第10回  
(最終回)

## ○タクタクベオベツ(川)

「タクタクベオベツ川」は、左股から本別町に向かう国道392号に沿って流れている川で、「タク・タク(ごろごろした石)・ベ(あるもの)・オ(そこに)・ベツ(川)」と言う意味があります。

アイヌ語の「タク」はもともと「玉、かたまり」という意味で、

それを「タク・タク」と重ねていること、また、この川が険しい山岳地帯から流れていることから、大きな石がごろごろと無数にあるようすを知ることができます。

このことは、明治時代のアイヌ語研究者永田方正も『北海道蝦夷語地名解』で「大石多キ川、安政帳二大川ノ内大石アル処トアル」と記載しています。



## ○チクペンニナイ

「チクペンニナイ」は、茶路川が右股から3キほど北上したところで分かれている川で、「チクペンニ(チクペン/えんじゆの木)・ナイ(沢)」と言う意味から、「えんじゆの木が生えている沢」と訳されます。

## ●エンジュ(イヌエンジュ/犬槐・犬延寿)

エンジュは、心材の濃い褐色と心材を取り囲んだ部分の淡い黄白色のコントラストや光沢のある木目を生かし、床柱、家具、盆、クラフト、フローリングのほか、三味線や太鼓の胴にも使われます。北海道では、腐りにくさから鉄道の枕木にも使いました。

また、幹や枝を傷つけると臭いが出るので、昔、アイヌの人たちは、その臭いが病魔を寄せ付けないとして、チセ(家)の骨組みに用いていたとのことでした。

(参考)北海道総合研究機構林産試験場ホームページ「道産木材データベース」

## ○ウコタキヌプリ

「ウコタキヌプリ」は、ルークシチャロ川の流れ、白糠町と本別町

と足寄町の境にある山で、標高は745呎。白糠の山のなかでは、阿寒富士(1476呎)に次いで2番目に高い山です。

「ウコツ(互にくつついて)・キ(する)・ヌプリ(山)」と言う意味で、二つの山が互いに抱き合っているような姿をしていることから名前がつけました。

この山は「ユクランヌプリ(ユク(鹿)・ラン(下りる)・ヌプリ(山))」とも呼ばれ、昔、鹿をつかさどる神様が天から鹿を下ろしたところと言う伝説が残っています。

## ●イナウシペ

『白糠のアイヌ語地名』には、ウコタキヌプリに関係した地名として「イナウシペ」が紹介されています。

「イナウシペ(イナウ(木幣)・ウシ(ある)・ペ(ところ))」は、ウコタキヌプリに連なる山並みを約2キほど北上したところにあり(イナウシ山)、山へ狩りに行くとき、ウコタキヌプリに安全と収穫を祈ってイナウを捧げたところと言われています。